

平成26年5月27日

杉並区議会議長
大泉 時男 様

文化芸術・スポーツに関する特別委員会
委員長 安齊 あきら

文化芸術・スポーツに関する特別委員会活動経過報告書

文化芸術・スポーツに関する特別委員会の活動経過について、下記のとおり報告します。

記

1 活動年月日

平成26年2月28日 報告聴取

2 活動経過

(1) 古典の日に係る子ども関連事業の実施について

「古典の日に関する法律」の趣旨に基づき、試行事業として「狂言に親しむ春 人間国宝・杉並名誉区民 山本東次郎が舞う」を特定非営利活動法人杉並で能楽を楽しむ会の協力のもと実施するとのこと。

内容は、子どもたちが日本の伝統芸能の1つである古典に気軽に触れることのできる狂言で、初めて見る子どもたちでも楽しめる演目とのこと。日時及び会場は3月26日午後2時より、セシオン杉並ホールとのこと。

そのほか、区本庁舎2階ギャラリーで、狂言の写真展を同時開催するとのこと。

(2) 杉並芸術会館（座・高円寺）開館による地域への活性化効果について

座・高円寺は開館以来、区の芸術文化の振興に成果を上げる一方、にぎわいや経済活性化などさまざまな波及効果をもたらしており、今後、他地域のまちづくりに活かすため、その効果についてあらためて検証を行ったとのこと。

主な波及効果として、開館を契機に、春の「びっくり大道芸」、夏の「阿波踊り」、秋の「高円寺フェス」、冬の「演芸まつり」が高円寺4大まつりとして定着し、来街者が増加したことや、座・高円寺の来館者のうち68%が高円寺で買い物をするという市場調査の結果から、約3億2,600万円の経済効果をもたらしていることなどが挙げられるとのこと。

また、座・高円寺を含めた地域団体の、連携・協働による一体となった取り組み

により、高円寺地域の知名度・イメージが向上したと評価されているとのこと。

(3) 合同部活動及び部活動活性化事業モデル実施について

① 合同部活動について

プロのコーチ等による専門的な指導を受けることで、区立中学校の部活動参加生徒の技能等の向上や、顧問教諭の技術指導の向上を図ることを目的に、平成 21 年度から実施し、25 年度は野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール及び陸上競技の 5 種目で延べ 449 名の生徒が参加したとのこと。

指導団体は、つばめスポーツ振興協会や東京ベルディなどで、参加した顧問教諭からは、肯定的な意見や今後に向けた意見が寄せられ、生徒からは、技術向上への手ごたえや学んだ基本を試合で活かしたいといった意見が寄せられたとのこと。

教育委員会では、26 年度も引き続き実施する考えとのこと。

② 部活動活性化事業モデル実施について

月 5 回程度、部活動へ指導者を派遣するもので、25 年度は、10 種目 20 部活動で実施したとのこと。

土日に、顧問教諭が不在でも活動できることが事業の特徴の 1 つで、アンケートでは、「成果があった」、「顧問の負担軽減が図られた」、「民間人コーチの指導がわかりやすい」などの回答が大半を占めたとのこと。

次年度も、部活動の充実に向け、引き続き実施していく考えとのこと。

(4) 学校施設の開放について

区民に文化・スポーツの場を提供するとともに、地域での連帯意識を醸成するため、区立小中学校で教育活動に支障のない範囲で施設開放を行っているとのこと。

また、杉並区内の都立高校 9 校においても、部活動のない試験期間中などに限って、6 校が校庭を、1 校が体育館を開放しているとのこと。

(5) 平成 25 年度交流自治体中学生親善野球大会の実施報告について

スポーツの交流を深め、健全なスポーツ精神を培い、異文化理解、国際理解を深めることを目的に、平成 25 年度は台北市、南相馬市、名寄市の参加で、12 月 26 日から 29 日にかけて実施したとのこと。参加者は、杉並区 49 名、名寄市 22 名、南相馬市 20 名、杉並区応援団の 38 名で、開幕式後、台北市内の新生公園棒球场、青年公園棒球场の 2 会場で各 4 試合が行われたとのこと。

閉幕式後には、台湾と杉並区において、青少年交流事業を今後も推進していくための交流推進宣言書が取り交わされたとのこと。

実施内容は、次世代育成基金活用事業成果報告会で報告されたとのこと。

以上のとおり、5 件の報告を聴取し、質疑応答を行いました。

以上